

2026年
No. 107
1月1日発行

国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION (KIFA)



茶道体験会

2025年8月30日(土)

夏の終わりににもかかわらず、気温は37度という猛暑の昼下がり、茶道体験会が学園西町地域センターの茶室で開かれました。講師をお迎えし、参加者はやや緊張した面持ちの留学生5名（スペイン2名、台湾1名、キルギス1名、オーストラリア1名）、そしてKIFA交流イベントグループのボランティアが通訳等のサポートに。

まず講師が茶道の歴史概略を紹介。その昔、日本にお茶の木はなかったの、中国からお茶の点て方と共に輸入され、始めの頃は貴族が広い豪華な部屋でお茶を楽しんでいたそうです。その後、歳月を経て、日本独自の狭い茶室で質素にお茶を楽しむ形に変わりました。

続いて、講師が道具の使い方を説明した後、簡単なデモンストレーションを見せると、留学生たちは目を凝らして真剣な面持ち。和菓子が配られた後、講師の「それでは実際に皆さん、お茶を点ててみましょう」という掛け声で、恐る恐るゆっくりとシャカ、シャカ茶筌を回す音が静かに流れました。すると、講師が「力を抜いて、もっと速く」と、シャカシャカとスムーズで小気味よい音を立てながらお手本を見

せ、お茶碗の中の抹茶がきれいに泡立つと、留学生たちからは、「オー！」という感嘆の声。

講師から、「抹茶は苦いので、先にお菓子を召し上がってください」と説明があり、留学生たちは指示通りにお菓子を食べた後抹茶を飲むと、皆、口々に「おいしい！」と嬉しそうな笑顔を振りまいていました。講師が「今までに抹茶を飲んだことはありましたか？」と尋ねると、「カフェで…」という返事が。本格的な抹茶は全員初めてだったようです。

しばし歓談の後、講師が「もう一度、点ててみましょうか」と声を掛け、全員2杯目に挑戦。少し慣れ、初めより茶筌を回すのが軽く、速くなり、講師からお褒めの言葉。留学生たちのお茶碗の中にも抹茶のきれいな泡が立ち、歓声飛び交いました。

その後は、くつろいだ姿勢で留学生たちが簡単な自己紹介。「日本へ来た動機は何ですか？」という質問に対して、「日本文化に興味があったので」という返事が多かったです。スペイン人の留学生の内1人は「後1週間で帰国予定ですが、日本が大好きで、まだ帰りたくありません」と。茶道体験で、さらに日本が好きになったようです。

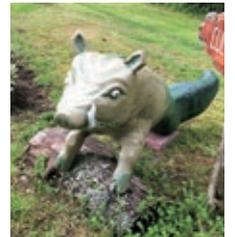




◆サッシャ・ハニグさん (チリ出身、研究者)

南米の西岸沿いに位置する細長い国チリ出身のサッシャさんは、SDG Global Leaders を学ぶ為の奨学金を JICA から受け、2021年11月17日に日本へやって来ました。ちょうどコロナ禍の時で、空港で検疫を受けた後、実際の入国まで10日間ホテルに缶詰めにされたそうです。現在大学院の博士課程で国際関係を学び、民主主義と人権について研究中です。KIFA では、料理教室でチリ料理を教えたり、国際子どもクラブおよび多文化理解講座の講師と大活躍です。

入国後、コロナ流行のせいで外国人の数は少なく、厳しい時期でしたが、私は歓迎され、とても素敵なコミュニティに受け入れてもらいました。他の国では、私がチリから来たと言ってもあまり反応がありませんが、日本人は好奇心が強く、チリについて質問攻めにありました。日本へ来る前に、日本の文化はチリとは大変異なり、たくさんの規則があると聞いていましたし、オープンなラテンアメリカ人に比べ、日本人は恥ずかしがり屋だと思いましたが、それらの事に関して特に問題はありませんでした。思っていたよりも、全てのことがうまくいきました。



チリにも大きな地震やたくさん火山があるなど日本との共通点が色々あります。チリと日本は防災に関する技術情報を交換し合っていますが、チリに台風は来ません。チリにも四季があり、桜やその他の花々も楽しみ、果物や野菜も日本と同じ様な物があります。



日本は、チリがアジア太平洋地域で初めて外交関係を結んだ国で、それは125年前、明治時代の後です。チリ人は日本の文化を一般的に敬みます。日本のアニメや食べ物は人気があり、日本大使館によって寄贈された日本庭園はお花見など日本文化の理解を深めています。チリ人は、ラテンアメリカの国々の中では日本人のようにルールを守ることによって知られていて、例えば、赤信号では決して道路を渡りません。

私の父方家族はドイツにルーツがあり、故郷はチリの南部、チロエと呼ばれる島です。そこは雨が多く、たくさんの幽霊の話や民話があります。母はチリの中部、ヴィエナマルタの出身です。私はサンチアゴで生まれましたが、私の家族はサンチアゴから父の故郷のチロエ辺りを引っ越して回りました。



その後、両親が離婚をした関係で、母と沿岸地域に引越し、9歳から22歳まで暮らしました。また、祖母とドイツで3か月暮らしたり、17歳の時に中国で暮らしたこともあります。私の故郷はと聞かれたら、精神的に強く繋がりを感じるチロエと答えます。父は数年前に亡くなりましたが、チロエに今でもいるように感じます。

チロエは島なので、日本と似た文化を共有しているように感じます。例えば、妖怪の話はおもしろく、日本にもそういった話が数多くあると思います。冬は寒いですが、採れたての新鮮な魚介類はとてもおいしいです。私の家の近くで、バードウォッチングができ、フラミンゴ、カモメ、フクロウやその他にもおもしろい鳥がいます。夏にはお祭りがあるなど、伝統的な文化を楽しめます。



民話のキャラクター達
©Sascha Hanning

多国籍文化に関して、私は半分ドイツ人、半分チリ人なのですが、チリには同じように多様なルーツの人々がたくさんいます。そのため、チリで生まれ育った事自体が多国籍文化の環境で成長したといえ、それは私にとってごく自然です。20万人以上のパレスチナ人とユダヤ人も暮らしていて、時になんと一緒にビジネスを営んでいます。ヨーロッパからドイツ人やイタリア人、フランス人、同じ南米の国々からアルゼンチン人やベネズエラ人などがやってきます。その環境は私が他国にいる時、他の暮らしを理解するのに役立ちました。日本にいる外国人はほとんどアジア人で、ラテンアメリカ人は残りの外国人の中でも少数派です。チリでは、「他国へ行く時は自分の国の良い文化を持ち込み、悪い文化は置いていこう」といいます。

日本には少なくとも後1年いるつもりですが、もし仕事が見つかったら、もっと長く滞在したいと思っています。せっかく日本語を習い始めたので、無駄にたくありません。日本でやりたいと思っていた事のうち、富士登山を含め半分くらいは達成しました。後は、恐山など東北地方を旅してみたいです。他には、ボルダリングが好きなので、日本で有名なジムをいくつか試してみたいと思っています。ですが、まずは大学院博士課程を修了させる事が、一番の優先事項です。

日本には少なくとも後1年いるつもりですが、もし仕事が見つかったら、もっと長く滞在したいと思っています。せっかく日本語を習い始めたので、無駄にたくありません。日本でやりたいと思っていた事のうち、富士登山を含め半分くらいは達成しました。後は、恐山など東北地方を旅してみたいです。他には、ボルダリングが好きなので、日本で有名なジムをいくつか試してみたいと思っています。ですが、まずは大学院博士課程を修了させる事が、一番の優先事項です。



チロエ島の風景
©Sascha Hanning

今回はKIFA「国際理解講座」と「こども日本語・学習支援教室」のボランティアグループ共催で行われました。講師は現在一橋大学で国際政治を専攻している留学生のドゥルゴーンさんです。

モンゴルは、超親日国で、日本への留学は人口比でトップだそうです。モンゴルへの旅は国民統合の祭典ナードムがある夏がおすすめ。冬はマイナス40度近くにもなり外に出られない厳しさです。お母さん、おばあちゃんの味であるミルクティーは、茶葉、塩、水、バターで作ってお客をもてなします。寒い地域ではピッタリの飲み物です。

楽器では、ユネスコの無形文化遺産である馬頭琴があります。習い事としても人気があり、縁起物なので自宅に飾る人もいます。

科学技術のイメージが全くないモンゴルですが、実は日本よりも早かったものがあります。1981年、宇宙飛行士グルラグチャが宇宙飛行を経験しました。国境を接するロシアとの結びつきを表しています。

モンゴルの困難な時期はソ連邦の崩壊でした。社会主義から民主主義へ移行したころ、日本は初等、中等学校の建設に協力しました。また、保健医療器材の供与も行っています。



ドゥルゴーンさんのモンゴル紹介

両国の発展に寄与してきた人々もいます。作家司馬太郎は大阪外語大学でモンゴル語を専攻し、「モンゴル紀行」を書きました。1973年当時のモンゴル社会を好意的に描写したものです。

清水武則さんは、モンゴル大使として4回赴任しています。モンゴル・日本文化センターを作り、教育部門への集中的な支援を行いました。これにより、日本に関心、好意を持つ若者を育てました。

フレルスフ現大統領は、1994年JICAで来日、ホームステイをしています。大統領になってから、お世話になった家族をモンゴルに招いた様子は、時を超えて果たされた約束としたドキュメンタリーで放映されています。

最後に質問タイムとなりました。いくつかの質問に答えたドゥルゴーンさん、感心したのは日本語の上手なこと。ネイティブ同様の話に拍手喝さいの会でした。



ボルドエルデネさんによる馬頭琴の演奏とホミーの歌唱



モンゴルミルクティーを飲みながら、「スーホの白い馬」の朗読を聞く

夏休み最後の土曜日、世界の料理グループによる初めての企画、親子料理教室が津田公民館で開催されました。作るのは焼餅（シャオピン）、中国では朝食やおやつとしてよく食べられていて、信州のお焼きに似ています。講師は、男性の李徳鑫（リ トウキン）さんと女性の鍾旭鯨（ショウ キョクゲイ）さんです。

参加者は、親子4組と子ども2人、大人4人の計14人、4グループに分かれて作業しました。

まずは生地作り。中力小麦粉に塩を混ぜ、そこに温水と酵母、砂糖を入れて活性化したものを三回に分けて入れよくこねます。そして生地が発酵するまで置きます。次は餡づくり。高菜豚肉餡と人参・椎茸豚肉餡の2種類です。高菜のほうは味が付いているのでそのまま、人参、椎茸はみじん切り、豚肉とともに塩、オイスターソース、



だしで味を付けます。それぞれ炒めて餡の出来上がり。

焼餅作りのコツは、生地を平らに伸ばした後、熱した油を中力粉に注ぎかき混ぜた油酥（ヨウスー）を塗っ

てパイのように折りたたむことです。これが焼餅独特の皮のパリパリ感を生みます。生地はさらに一個分ずつ分割し、伸ばして餡を包みます。丸い生地に餡をのせて生地の手を中央に花のように包み込みます。餡を包む工程では、皆集中して取り組み、出来上がりを楽しみにしている様でした。

最後に丸めた生地を鉄板にのせ、オーブンやフライパンで焼きます。これが予想以上に時間がかかり、焼き上がりは始めてから2時間30分が過ぎていました。

さて、いい匂いがしてきて試食の時間です。子ども達には高菜豚肉餡のほうが好きでした。食べながら講師への質問タイムに移りました。中国では焼餅をたくさん作って保存し、一年中食べるそうです。「焼餅の食べ合わせは？」という質問には、手作りの豆乳を飲むという答えが返ってきました。前夜から大豆をふやかし、朝ミキサーにかけて飲むそうです。焼餅自体も炭水化物、肉、野菜とバランスのとれた食べ物ですが、それに手作りの豆乳とはさすがに驚きました。まさに健康食品そのものです。焼餅も子どものおやつにピッタリ。家でもぜひ試してほしいと思いました。



1~3月の行事・講座予定

- ◎多文化カフェ(外国人対象) 1月18日(日)・3月22日(日)
- ◎小学校入学準備教室(外国人親子対象)
1月17日・2月14日・3月14日 土曜日
- ◎こだいら市民駅伝大会 KIFAチーム参加 2月1日(日)
- ◎ボランティア連絡会 2月14日(土)
- ◎世界の料理 飾り巻き寿司 2月中旬
- ◎交流イベント たこ焼きパーティ 3月7日(土)
- ◎理事会 3月9日(月)
- ◎小学校入学相談会(外国人保護者対象) 3月14日(土)

※詳しくは、ウェブサイトまたはミニレターでご確認ください。

編集後記

日本に来た外国人の話や話を聞くと、日本が好きだと言ってくれる人がいます。しかし最近では、日本の文化を肯定的に捉えてくれる人が、日本が好きになれるんじゃないかと考えるようになりました。つまり誰でも、相手の国をプラスに捉えることで好きになり、お互いに仲良く出来るんじゃないかと思うのです。

(C.H)



発行日 2026年1月1日
発行 一般社団法人 小平市国際交流協会
編集 機関紙グループ
〒187-0045
小平市学園西町2-12-22
学園西町地域センター 3階
TEL. 042-342-4488・7509
FAX. 042-347-3003
Eメール: info@kifa-tokyo.jp

